

平成31年度 北海道大学大学院  
文学院修士課程入学試験（後期）

試験区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般入試 <input checked="" type="checkbox"/> 外国人留学生特別入試 <input type="checkbox"/> 社会人特別入試（後期のみ）
試験科目名	<input checked="" type="checkbox"/> 専門試験（ 欧米文学 ） <input type="checkbox"/> 共通外国語（ ）
出題の意図	西洋文学科目の問題は、英米・英語圏文学、ロシア文学、フランス文学および西洋古典学（ギリシア語・ラテン語）の各分野から出題されている。出題の意図は、修士課程の標準修業年限内に修士論文を提出するための前提条件を満たしているかどうかを問うものである。具体的には、それぞれの分野における基本的な文学史・文学理論等に関する知識レベル及び欧文（英語、ロシア語、フランス語、ギリシア語、ラテン語）文献の読解力を判定する。

平成31年度  
北海道大学大学院文学院修士課程入学試験問題（後期）  
（専門試験） 欧米文学 全9枚のうち1枚目

この試験では、試験問題 9枚、解答用紙 2枚を配付する。

**解答における注意**

（専門試験）欧米文学の出題範囲は、英米・英語圏文学、フランス文学、ロシア文学、西洋古典学です。志望する分野に応じた出題範囲の問題を選択し、その設問 I と設問 IIに答えてください。

解答用紙は2枚あります。それぞれの解答用紙の回答欄の1行目左に、出題範囲と設問番号を記入してください。各設問は別の解答用紙を使ってください。

**出題範囲・設問・ページ**

英米・英語圏文学	設問 I・設問 II	2～3
フランス文学	設問 I・設問 II	4～5
ロシア文学	設問 I・設問 II	6～7
西洋古典学	設問 I・設問 II	8～9

## [英米・英語圏文学] 設問 I

Choose two literary terms out of “anachronism,” “queer,” “soliloquy,” and “wit,” and then discuss each term separately. Where does it come from? How does it work? Has its function changed? Demonstrate your understanding of each term, first by its original definition and then by its current use in English literature. Make sure you explain its characteristics by referring to at least two literary texts in order to effectively prove your idea(s).

On the first literary term of your choice, please write the essay in Japanese, though you may refer to the texts' titles and term(s) in English. The essay on the second literary term you choose has to be written in English. You may write as much as you wish within the given time.

[英米・英語圏文学] 設問 II

次の英文を和訳せよ。

\* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の  
出典箇所を参照するか、文学研究科教務係の窓口で閲覧してください。

出典：John Lawrence Darretta, *Before the Sun Has Set*. Peter Lang: New York, 2006. p.11

[フランス文学] 設問 I

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Alain Pagès, *Émile Zola De J'accuse au Panthéon*, Lucien Souny, 2008, p. 17.

[フランス文学] 設問 II

以下のフランス語の文章をすべて和訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典：Blaise Pascal, *Pensées*, Bordas, « Classique Garnier », p.202-203.

[ロシア文学] 設問 I

次にあげる人物のうち一人について、その文学史上の意義を含めて説明しなさい。

1. А. П. Сумароков (1717-1777)
2. М. Ю. Лермонтов (1814-1841)
3. М. Е. Салтыков-Щедрин (1826-1889)
4. А. А. Блок (1880-1921)
5. С. А. Алексиевич (1948- )

[ロシア文学] 設問 II

次の文を日本語に訳しなさい。

- \* 問題本文は著作権法上の理由からこのホームページに掲載することはできませんので、下記の出典箇所を参照するか、文学研究科教務担当の窓口で閲覧してください。

出典： *Светлана Минц*, Рождение культурологии. СПб.:Нестор. 1999. С.181-182.

## 〔西洋古典学〕 設問 I

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Ἄλλ' ἵνα τῶν ἀρχαίων ὑποδειγμάτων παυσάμεθα, ἔλθωμεν ἐπὶ τοὺς ἔγγιστα γενομένους ἀθλητάς· λάβωμεν τῆς γενεᾶς ἡμῶν τὰ γενναῖα ὑποδείγματα. διὰ ζῆλον καὶ φθόνον οἱ μέγιστοι καὶ δικαιοτάτοι στῦλοι ἐδιώχθησαν καὶ ἕως θανάτου ἤθλησαν. λάβωμεν πρὸ ὀφθαλμῶν ἡμῶν τοὺς ἀγαθοὺς ἀποστόλους· Πέτρον, ὃς διὰ ζῆλον ἀδικῶν οὐχ ἓνα οὐδὲ δύο, ἀλλὰ πλείονας ὑπήνεγκεν πόνους καὶ οὕτω μαρτυρήσας ἐπορεύθη εἰς τὸν ὀφειλόμενον τόπον τῆς δόξης. διὰ ζῆλον καὶ ἔριον Παῦλος ὑπομονῆς βραβεῖον ὑπέδειξεν, ἐπτάκις δεσμὰ φορέσας, φυγαδευθεὶς, λιθασθεὶς, κήρυξ γενόμενος ἐν τε τῇ ἀνατολῇ καὶ ἐν τῇ δύσει, τὸ γενναῖον τῆς πίστεως αὐτοῦ κλέος ἔλαβεν. δικαιοσύνην διδάξας ὅλον τὸν κόσμον, καὶ ἐπὶ τὸ τέρμα τῆς δύσεως ἐλθὼν καὶ μαρτυρήσας ἐπὶ τῶν ἡγουμένων, οὕτως ἀπηλλάγη τοῦ κόσμου καὶ εἰς τὸν ἅγιον τόπον ἀνελήμφθη, ὑπομονῆς γενόμενος μέγιστος ὑπογραμμός.

Clemens Romanus, *Epistula ad Corinthios*, V 1-7

註：

- ・ ὑπόδειγμα ここでは「事例」
- ・ στῦλος 柱
- ・ ἀθλέω (競技者として) 闘う
- ・ κλέος 名声
- ・ τέρμα ここでは「端 (はし)」
- ・ ὑπογραμμός 手本

[西洋古典学] 設問Ⅱ

次の文を日本語に訳せ。また、この著者及び著作について、知るところをなるべく詳細に述べよ。

Druides a bello abesse consuerunt neque tributa una cum reliquis pendunt; militiae vacationem omniumque rerum habent immunitatem. Tantis excitati praemiis et sua sponte multi in disciplinam conveniunt et a parentibus propinquisque mittuntur. Magnum ibi numerum versuum ediscere dicuntur. Itaque annos nonnulli vicenos in disciplina permanent. Neque fas esse existimant ea litteris mandare, cum in reliquis fere rebus, publicis privatisque rationibus Graecis litteris utantur. Id mihi duabus de causis instituisse videntur, quod neque in vulgum disciplinam efferrī velint neque eos, qui discunt, litteris confisos minus memoriae studere: quod fere plerisque accidit, ut praesidio litterarum diligentiam in perdiscendo ac memoriam remittant. In primis hoc volunt persuadere, non interire animas, sed ab aliis post mortem transire ad alios, atque hoc maxime ad virtutem excitari putant metu mortis neglecto.

Caesar, *De Bello Gallico*, VI 14

註：

- consuesco -ere -su(ev)i -suetum + inf. (～するのを) 常とする
- pendo -ere pependi pensum 支払う
- sua sponte 「自ら進んで」
- edisco -ere -didici 暗記する
- confido -ere -fusus sum + dat. 信頼する
- praesidium 助け
- remitto ここでは「弛緩させる」
- hoc maxime 「特にこのことによって」